

標準化の基礎

(財)日本規格協会 吉田 均

1. 標準化（活動）の果たす役割

製品の形状・寸法，製造方法，試験・校正方法，用語などを規格（標準）によって統一する標準化（活動）は，これまで製品間の互換性の確保，製品品質の確保，生産効率の向上，正確な情報伝達など様々な面で役割を果たしてきており，今日では私たちの社会基盤の一つともなっている〔表 1 (1)～(4)〕。また，近年では企業における技術開発の成果を社会（市場）へ普及させるツールとして，さらには廃棄製品のリサイクル促進など環境保全のツールとして製品の設計・開発段階から標準化（活動）に取り組むなど，その果たす役割はますます拡大している〔同表 (5)～(7)〕。

表 1 標準化（活動）の果たす主な役割

- | |
|--------------------------------------|
| (1) 製品間の互換性の確保 |
| (2) 規格に対する適合性評価（認証）により，製品の品質を確保 |
| (3) 生産効率の向上（各工程の効率化，在庫管理の効率化，コスト低減等） |
| (4) 用語等の統一による相互理解の促進（正確な情報の伝達） |
| (5) 技術開発の成果の普及 |
| (6) 環境保全（製品リサイクル） |
| (7) 企業の産業競争力の強化，企業間の競争環境の整備 |

2. 標準化（活動）の基本的枠組み

標準化（活動）を進めるためには，規格を定める（図 1 ①）ほかに，製品が規格を満たしているかを評価し，これを証明する認証のしくみ（同図 ②），さらに認証の際に必要な計測の“ものさし”即ち計量標準の整備（同図 ③）が必須となる。「規格」，「認証」，「計量標準」が相互に機能した標準化（活動）が進められることにより品質の確保された製品が供給される。



図 1 標準化（活動）の基本的枠組み